

# 21, メギ科の巨木 Berberidaceae

■メギ科の巨木は以下に分類する。

A ナンテンの巨木

## 21-A ナンテン(南天)の巨木 メギ科ナンテン属 Nandina domestica

※暖地の山地に野生のものがあるが、巨木は庭等で育てられたもの。ほとんどは株立ちになる。稀に単幹樹で巨大化したものが報告されているが、これは剪定による人為的なものであろう。巨木評価基準が定められず、本書では紹介するに留める。



樹高日本一のナンテン

みょうほうりんじ  
妙法輪寺のナンテン 石川県羽咋郡宝達志水町麦生ニ-158

本堂横の狭い中庭にあり、本堂に寄りかかるように成長し、最盛期には本堂の大屋根の先端に届いていた。このナンテンは樹高が高く、かつて7.5m あったが、現在は6m 程。それでも、現在知られているナンテンでは、日本一の樹高を誇る。もともとの親株は18本の株立ちで、その周囲に実生から育った株が34株増殖して、大きな株を形成している。

寺前に案内板があり、「佐渡のナンテン」という巨木があり、根周0.2m、樹高5.5mと記載されているが、未確認である。



れんげじ  
蓮花寺のナンテン

兵庫県豊岡市竹野町轟

1855年に植樹したと伝えられる。本堂前にあり、18本の株立ちで、株周2.2m、樹高5m、樹齢150年、最も太い幹は0.13m。



こうきつじ だいなんでん  
香橘寺の大南天

静岡県島田市阿知ヶ谷

本堂の裏庭にあり、大小7本立ちで、太いものは直径3㍍、高さ3m。



[参考資料]

たいしやくてん だいなんでんとこぼしら  
帝釈天の大南天床柱

東京都葛飾区柴又7-10-3

伊吹山の麓にあったとされるもので、根元近くの幹周0.3mで、すぐに何本かに分岐、樹高5mあったという。柴又帝釈天の大客殿の床柱になっている。解説版には「日本一大南天の床柱」と記されている。

(写真・Web画像)

# 22, モクレン科の巨木 Magnoliaceae

■モクレン科の巨木は以下に分類する。

- A ホオノキの巨木    B コブシの巨木    C ハクモクレンの巨木    D オガタマノキの巨木  
E ユリノキの巨木    F タイサンボクの巨木(723号)

## 22-A

## ホオノキ(朴の木)の巨木

モクレン科モクレン属  
Magnolia obovata

■ホオノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 10m 以上の単幹樹、同等評価のホオノキの巨木。  
B 幹周おおむね 5~10m の単幹樹、同等評価のホオノキの巨木。  
C B 評価以下のホオノキの巨木。

■主なホオノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級    A 国指定天然記念物級    B 県指定天然記念物級    C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	川連のホオノキ 写真 H-001	M10.7m(1.3m 2006)	18m	秋田県湯沢市秋の宮字川連	市
B	戒場神社のホオノキ 写真 H-002	M6.2m(1.3m 2012)	15m	奈良県宇陀市榛原区戒場 388	県
B	ほおのき原のホオノキ 写真 H-003	株周 10.6m	15m	岡山県新見市千屋字花見	市
B	長瀬八幡神社のホオノキ 写真 H-004	株周 8.9m	12m	兵庫県美方郡香美町村岡区長瀬	なし
B	岡田神社のホオ 写真 H-005	5.1m	11m	広島県山県郡北広島町大暮	町
C	国造神社のホオノキ 写真 H-006	4.7m	20m	熊本県阿蘇市一の宮町	市
C	氷ノ山のホオノキ 写真 H-007	4.2m	15m	鳥取県若桜町	なし
C	坪野八幡神社のホオノキ 写真 H-008	M4.0m(1.3m 2008)	20m	石川県能美市坪野	なし
C	井の頭のホオノキ 写真 H-009	3.75m	12m	東京都武蔵野市御殿山	なし
C	三久安山のホオノキ 写真 H-010	3.0m	15m	兵庫県宍粟市一宮町公文	なし



◀写真 H-002

### かいば 戒場神社のホオノキ

神社前の斜面に立ち、根元が大きく膨らみ、空洞化している。巨木 DB 幹周 8.6m は根元周囲か。

写真 H-003▶

### ほおのき原のホオノキ

根元で7分岐する株立ち樹形である。  
(写真・Web 画像)





写真 H-001 日本一のホオノキ

かわつら  
川連のホオノキ

秋田県の南端、巨木密集地帯として知られる山形県の北部に近い、神室山の麓に川連の小さな集落がある。国道から少し入り込んだ道を進むと、千代世神社という小さな社があり、その裏手に社を覆うようにホオノキが立っている。樹下に立つと、これがホオノキかと疑いたくなる程でかい。M式で幹周を測定すると、10.7mという結果が出た。

地上1.5mから大きく3分岐する樹形で、樹勢はすこぶる旺盛だ。社殿の狭い境内の片隅に、小さな祠、石仏、石碑がある。神室山は山岳宗教の山として知られ、今もホオノキの前を通って、多くの登山者が登るといふ。大きな日影を作ってくれるホオノキは、登山者の憩いの場所としての役割を果たしていたことであろう。



▲写真 H-004  
ながせ  
長瀬八幡神社のホオノキ  
(写真・Web画像)



▲写真 H-005  
おかだ  
岡田神社のホオノキ  
(写真・Web画像)



▲写真 H-006  
こくぞう  
国造神社のホオノキ  
(写真・Web画像)



▲写真 H-007  
ひょうのせん  
氷ノ山のホオノキ  
(写真・Web画像)

▼写真 H-008  
つばの  
坪野八幡神社のホオノキ



▼写真 H-009  
い  
井の頭のホオノキ  
(写真・Web画像)



▼写真 H-010  
さんきゅうあんざん  
三久安山のホオノキ  
山頂近くに立つ。(写真・Web画像)



# 22-B

## コブシ(辛夷)の巨木

モクレン科モクレン属  
Magnolia kobus

※コブシの変種で、日本海側に分布し、葉がコブシより大きなキタコブシは分類しない。

### ■コブシの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 5m 以上の単幹樹、同等評価のコブシの巨木。
- B 幹周おおむね 3~5m の単幹樹、同等評価のコブシの巨木。
- C B 評価以下のコブシの巨木。

### ■主なコブシの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	野麦のコブシ 写真 KB-001	M5.3m(分岐 0.3m 2008)	18m	岐阜県高山市高根町野麦	なし
B	赤前のコブシ 写真 KB-002	4.65m	15m	岩手県宮古市赤前 15-70	市
B	中の島公園の大コブシ 写真 KB-003	3.7m(分岐)	13m	茨城県猿島郡霞町	なし
B	若宮八幡宮のキタコブシ 写真 KB-004	3.7m	17m	青森県八戸市松館字牛ヶ沢 34	なし
B	須川の大コブシ 写真 KB-005	3.3m	14m	新潟県上越市安塚区須川	町
B	壺本木の種蒔桜 写真 KB-006	3.28m	15m	秋田県大仙市太田町東今泉字壺本木	市
B	栗原神社のコブシ 写真 KB-007	3.1m	20m	岐阜県飛騨市河合町保字栗谷 1562	県
B	白山社のコブシ 写真 KB-008	M3.05m(1.3m 2015)	10m	長野県茅野市湖東須栗平	なし
B	千古園のキタコブシ 写真 KB-009	3.0m	12m	北海道江別市東野幌 375	なし
枯死	松木田のコブシ 写真 KB-010	4.75m	15m	岩手県八幡平市安代町松木田	なし
枯死	三郷のキタコブシ 絵画 KB-011	5.0m	25m	長野県安曇野市南小倉	
枯死	上弥次のコブシ	3.05m	17m	福島県耶麻郡猪苗代町上弥次	



▲写真 KB-002  
あかまえ  
赤前のコブシ  
(写真・Web 画像)



◀▲写真 KB-003  
中の島公園の大コブシ  
(写真・Web 画像)



▼写真 KB-004  
若宮八幡宮のキタコブシ  
(写真・Web 画像)





写真 KB-001 日本一のコブシ  
野麦のコブシ

野麦は有名な野麦峠の麓にある小さな集落で、コブシは集落上部、西側の畑の隅に立つ。奥原家の墓標として植えられたもの。

地上1.3mで5.53mあるが、地上1.3mで大きく2分岐する樹形のため、M式では分岐幹として取扱い、最もくびれた部分を測定した。分岐部近くで、それぞれ2分岐し、4分岐に見える。現地記載の幹周8.09mはそれら4本の幹周合計値であり、実感される大きさは、かけ離れている。



▲写真 KB-005  
須川の大コブシ  
(写真・石田徹)



▲写真 KB-006  
壱本木の種蒔桜

桜とあるが、キタコブシである。  
(写真・Web 画像)



▲写真 KB-007  
栗原神社のコブシ  
(写真・Web 画像)



▲写真 KB-008  
白山社のコブシ  
白山社の大柏樹近くに立つ。



▲写真 KB-009  
千古園のキタコブシ  
(写真・Web 画像)

▼写真 KB-010  
枯死・松木田のコブシ  
(写真・Web 画像)



▼絵画 KB-011  
枯死・三郷のキタコブシ  
中村広子作・1995年制作。  
(絵画・Web 画像)



# 22-C

## ハクモクレン(白木蓮)の巨木

モクレン科モクレン属  
Magnolia denudata

※中国原産の樹木で、江戸期に薬用として渡来し、寺社境内に多く植えられている。

### ■ハクモクレンの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 3m 以上の単幹樹、同等評価のハクモクレンの巨木。
- B 幹周おおむね 2~3m の単幹樹、同等評価のハクモクレンの巨木。
- C B 評価以下のハクモクレンの巨木。

### ■主なハクモクレンの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	新宿御苑のハクモクレン 写真 HM-001	M2.41m(1.3m 2010)	14m	東京都新宿区内藤町 11	なし
B	高崎公園のハクモクレン 写真 HM-002	M4.2m(分岐 0.5m 2012)	15m	群馬県高崎市宮元町	なし
B	大徳寺のハクモクレン 写真 HM-003	M2.3m(1.3m 2013)	7.5m	愛知県新城市富栄町字大貝津 5	なし
B	実相寺のハクモクレン 写真 HM-004	M2.25m(1.3m 2008)	15m	山梨県北杜市武川町山高 2763	なし
B	海寺跡のハクモクレン 写真 HM-005	2.2m	15m	長崎県平戸市田平町山内免	なし
枯死	高長寺のハクモクレン 写真 HM-006	2.1m	12m	神奈川県小田原市城山 1-23-2	市
C	浄信寺のハクモクレン 写真 HM-007	1.96m	10m	熊本県上益城郡益城町田原 327	なし
C	能海寛ゆかりのハクモクレン 写真 HM-008	1.8m	15m	島根県浜田市金城町 浄蓮寺	市
C	資福寺の七香木蓮 写真 HM-009	1.7m	16m	宮城県仙台市青葉区北山 1-13-1	なし



写真 HM-001 日本一のハクモクレン

#### 新宿御苑のハクモクレン

新宿御苑は江戸時代に信州高遠藩主内藤家の屋敷があったもの  
だか、明治初年に新政府が「内藤新宿試験場」を開設し、明治後  
期に皇室の庭園として整備、戦後国民公園として今日に至ってい  
る。

新宿御苑の巨木は、内藤氏の庭園にあったと考えられるもので、  
現在知られている単幹のハクモクレンでは日本一の迫力がある。

新宿御苑は日本庭園の茶室・楽羽亭近くに立つ。花期は3月中  
旬で、花の頃は真っ白に全体が覆われ、幹が見えなくなるくらい  
咲き誇り、実に見事である(下写真・Web 画像)。地上 2.5m で 2  
分岐し、分岐部が最も太く、主幹にコブが多く、枝は垂れるよう  
に伸び、壮大なハクモクレンである。





◀写真 HM-002  
たかさき  
**高崎公園のハクモクレン**  
 1619年に植えられたとの伝承がある。0.5mで4分岐する。植栽当時の主幹は枯れ、側幹が4本立上がる分岐幹樹形になっている。



写真 HM-003▶  
だいとくじ  
**大徳寺のハクモクレン**  
 境内はハクモクレンで埋め尽くされる、ハクモクレンの寺で、その内の最大株である。



◀写真 HM-004  
じっそうじ  
**実相寺のハクモクレン**  
 実相寺は日本一のエドヒガン「神代桜」がある寺として知られるが、本堂裏にあるこのハクモクレンは、神代桜が咲く頃に満開期を迎えるが、神代桜が有名過ぎて、忘れられた存在である。



▲写真 HM-006  
**枯死・高長寺のハクモクレン**  
 (写真・Web画像)



◀写真 HM-005  
うみでらあと  
**海寺跡のハクモクレン**  
 現在、武野氏宅にある。  
 (写真・Web画像)

▼写真 HM-007  
じょうしんじ  
**浄信寺のハクモクレン**  
 (写真・Web画像)



▼写真 HM-008  
のうみゆたか  
**能海寛ゆかりのハクモクレン**  
 浄蓮寺にあり、1898年植樹。  
 (写真・Web画像)



写真 HM-009▶  
しふくじ ななかもくれん  
**資福寺の七香木蓮**  
 7分岐していたが、樹勢は弱っている。  
 (写真・Web画像)



# 22-D オガタマノキ(招霊の木)の巨木

モクレン科オガタマノキ属  
Magnolia compressa

※九州等では、枝葉を神前に供えるため、境内に植えられ、巨木となるものが多い。

## ■オガタマノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 7m 以上の単幹樹、同等評価のオガタマノキの巨木。
- B 幹周おおむね 4~7m の単幹樹、同等評価のオガタマノキの巨木。
- C B 評価以下のオガタマノキの巨木。

## ■主なオガタマノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	小長井のオガタマノキ 写真 OG-001	M9.1m(1.3m 2007)	20m	長崎県諫早市小長井町川内	国
B	小木原のオガタマノキ 写真 OG-002	6.4m	15.5m	鹿児島県大口市小木原	市
B	永利のオガタマノキ 写真 OG-003	6.7m	15m	鹿児島県薩摩川内市永利町石神 106-1	国
B	大沢津のオガタマノキ 写真 OG-004	5.5m	16m	宮崎県西諸県郡野尻町三ヶ野山	町
B	太ノ原のオガタマノキ 写真 OG-005	5.7m	20m	長崎県東彼杵郡東彼杵町中尾郷太ノ原	町
B	城のオガタマノキ 写真 OG-006	4.4m	26m	宮崎県延岡市北方町未	なし
B	村所小学校のオガタマノキ 写真 OG-007	4.2m	15m	宮崎県児湯郡西米良村大字村所	村
B	住吉神社のオガタマノキ 写真 OG-008	4.3m	24m	和歌山県田辺市鮎川 1512	県
C	霧島田口のオガタマノキ 写真 OG-009	3.9m	20m	鹿児島県霧島市霧島田口 276	市
C	日吉神社のオガタマノキ 写真 OG-010	3.8m	27m	福岡県筑紫郡那珂川町市ノ瀬 441-1	県
C	藤ノ川のオガタマノキ 写真 OG-011	3.8m	14m	高知県土佐清水市貝ノ川字藤ノ川	市
C	葉山さんのオガタマノキ 写真 OG-012	3.6m	18m	熊本県菊池郡大津町境目	なし
C	生目神社のオガタマノキ 写真 OG-013	3.2m	17m	宮崎県宮崎市大字生目	市



◀写真 OG-002  
こぎはら  
小木原のオガタマノキ  
(写真・Web 画像)



写真 OG-003▶  
ながとし  
永利のオガタマノキ  
国指定時は巨大であったが、現在は衰弱している。  
(写真・赤司裕宣)





◀写真 OG-001 日本一のオガタマノキ

こながい  
小長井のオガタマノキ

過去二度程幹の伐採を経験し、それでも生き延びて、現在のような巨大な樹形に成長したという。以前は幹全体がツタにおおわれ、樹種も特定できないくらいになっていたが、現在はよく手入れされるようになった。いったい樹齢ほどのくらいなのか、見当もつかない稀なオガタマノキである。一説に1000年ともいわれている。

林道より高さ2m程の石垣が造られ、その石垣に根が生える格好で立っている。上部接地面で大きく3分岐する樹形で、それぞれの幹はすぐ複数に分岐する。分岐部は平らになって、人が立てる空間がある(下写真・主幹を伐採し、分岐幹が成長した様子が解る)。幹周9.1mは、ちょうど上部接地面の分岐部分を測定したもので、幹の中心線より1.3m地点を測定するM式と同一場所になる。オガタマノキの巨木は九州に多く存在する。幹周9m台は小長井のオガタマノキ一本で、文句なく日本一のオガタマノキである。



▲写真 OG-004  
大沢津のオガタマノキ  
(写真・Web 画像)



▲写真 OG-005  
たいのぼる  
太ノ原のオガタマノキ  
(写真・石田徹)



▲写真 OG-006  
じょう  
城のオガタマノキ  
(写真・Web 画像)



▲写真 OG-007  
むらしよ  
村所小学校の  
オガタマノキ  
(写真・Web 画像)



◀写真 OG-008  
住吉神社のオガタマノキ  
(写真・Web 画像)

写真 OG-009▶  
きりしまたぐち  
霧島田口のオガタマノキ  
(写真・Web 画像)





▲写真 OG-010  
ひよし  
日吉神社のオガタマノキ  
(写真・Web 画像)



▲写真 OG-011  
ふじのかわ  
藤ノ川のおガタマノキ  
(写真・Web 画像)



▲写真 OG-012  
はやま  
葉山さんのおガタマの木  
(写真・Web 画像)



▲写真 OG-013  
いぎめ  
生目神社のおガタマノキ  
(写真・Web 画像)

## 22-E ユリノキ(百合の木)の巨木

モクレン科ユリノキ属  
Liriodendron tulipifera

※北米東部原産で、明治初期に渡来したものが残っていて、樹齢 140 年程になっている。成長が早く、街路樹等でよく植栽されている。

### ■ユリノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 6m 以上の単幹樹、同等評価のユリノキの巨木。
- B 幹周おおむね 4~6m の単幹樹、同等評価のユリノキの巨木。
- C B 評価以下のユリノキの巨木。

### ■主なユリノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

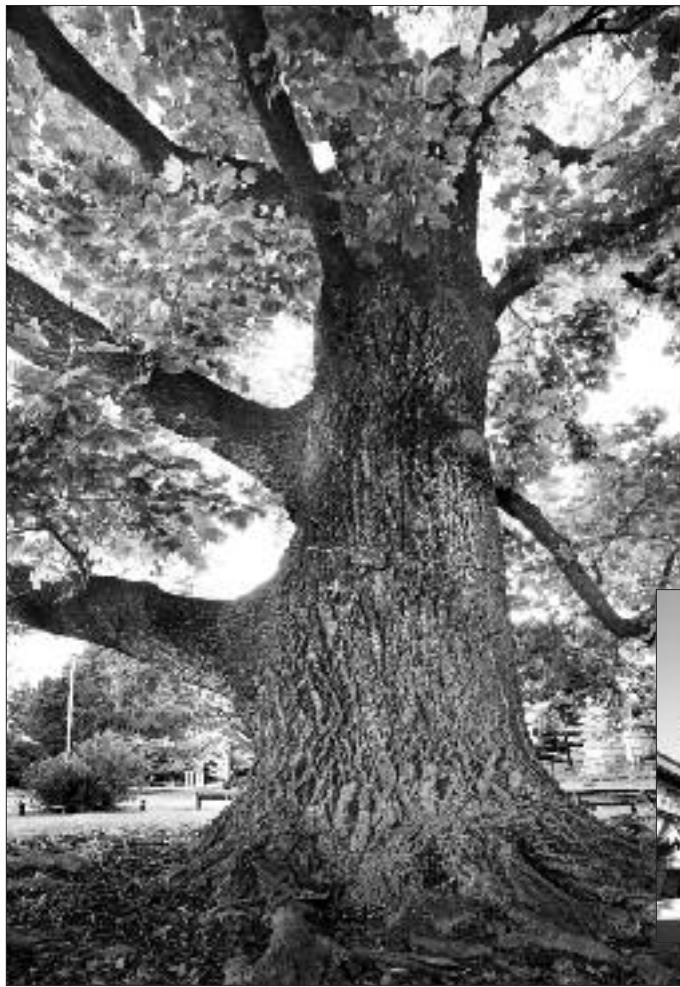
評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	東京国立博物館のユリノキ 写真 U-001	M5.9m(1.3m 2012)	24m	東京都台東区上野公園 13-9	なし
B	新宿御苑のユリノキ(中央株) 写真 U-002	M5.13m(1.3m 2010)	25m	東京都新宿区内藤町	なし
B	新宿御苑のユリノキ(歩道株) 写真 U-003	M4.77m(1.3m 2010)	25m	〃	なし
B	チューリップツリー 写真 U-004	5.0m	31m	秋田県仙北郡美郷町金沢東根	町
B	岩手大学のユリノキ 写真 U-005	4.45m	22m	岩手県盛岡市上田	なし
B	大堀公園のユリノキ 写真 U-006	4.18m	25m	青森県十和田市奥瀬堰道	なし
B	高杉のユリノキ 写真 U-007	4.43m	25m	青森県弘前市高杉	市
B	小石川植物園のユリノキ 写真 U-008	4.0m	20m	東京都文京区白山 3-7-1	なし



◀写真 U-002  
新宿御苑のユリノキ(中央株)  
新宿御苑最大株で、芝生広場の中央に立つ見事な単幹樹である。

写真 U-003▶  
新宿御苑のユリノキ(歩道株)  
歩道沿いに立つものの最大株。





◀写真 U-001 日本一のユリノキ  
東京国立博物館のユリノキ

新宿御苑が明治初年頃に「内藤新宿試験場」として欧米諸国の樹木等の栽培実験が行なわれた際、ユリノキも種子として30粒程輸入され、育てられた。植えられたのは明治9年と言われている。新宿御苑にあるユリノキの内、遊歩道沿いの3本と、芝生の中にある一本が、この時育てられたユリノキで、その内最も大きな芝生の中にあるユリノキ(幹周 M5.13m)が日本一とされてきた。ところが、国立博物館の本館正面にあるユリノキも、この時育てられた一本が移植された事が判明した。2012年の調査で、国立博物館のユリノキが大きく、日本一となった。

上野公園から国立博物館を望むと、この巨大なユリノキが本館前に聳えるようにして立ち、その圧倒的な存在感を示している。そのため、国立博物館は時に「ユリノキの博物館」と呼ばれるという。



地上1.5mで大枝が出るが、10mまで単幹でまっすぐに伸び、大きく枝葉を伸ばす見事な樹形である。ほとんど損傷がなく樹勢は旺盛である。樹齢から考えて、ユリノキの成長の早さは目を見張るものがある。



▲写真 U-004  
チューリップツリー  
(写真・Web画像)



▲写真 U-005  
岩手大学のユリノキ  
(写真・Web画像)



▲写真 U-006  
大堀公園のユリノキ  
(写真・Web画像)



◀写真 U-007  
若杉のユリノキ  
(写真・Web画像)

写真 U-008▶  
小石川植物園のユリノキ  
(写真・Web画像)



## 23, スズカケノキ科の巨木 Platanaceae

※別名プラタナスで知られる樹木で、スズカケノキ、アメリカスズカケノキ、モミジバスズカケノキ等の巨木が知られるが、本書ではこれらを分類せず、プラタナスの巨木として分類する。

### 23-A

### プラタナスの巨木

■プラタナスの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 7m 以上の単幹樹、同等評価のプラタナスの巨木。
- B 幹周おおむね 4~7m の単幹樹、同等評価のプラタナスの巨木。
- C B 評価以下のプラタナスの巨木。

### ■主なプラタナスの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	新宿御苑日本一のプラタナス 写真 P-001	M6.2m(1.3m 2010)	26.4m	東京都新宿区内藤町 11	なし
B	新宿御苑日本最古のプラタナス 写真 P-002	6.48m	6m	〃	なし
B	新宿御苑千駄ヶ谷門のプラタナス 写真 P-003	M6.14m(1.3m 2010)	20m	〃	なし
B	蛇沼牧場のプラタナス 写真 P-004	5.1m	34m	岩手県二戸市上斗米上野	なし
B	上野小学校のスズカケ 写真 P-005	5.0m	32m	栃木県佐野市植上町 1272	なし
B	四谷見附公園のプラタナス 写真 P-006	4.8m	32m	東京都新宿区四谷 1 丁目 12	なし
B	霞城公園のプラタナス 写真 P-007	4.0m	20m	山形県山形市霞城町	なし
B	小石川植物園のスズカケノキ 写真 P-008	4.0m	20m	東京都文京区白山 3-7-1	なし
C	小石川植物園のモミジバスズカケノキ 写真 P-009	3.8m	20m	〃	なし



◀写真 P-001 日本一のプラタナス

#### 新宿御苑日本一のプラタナス

新宿御苑は、明治 5 年に、信州高遠藩屋敷であったこの場所に近代農業振興を目的とした「内藤新宿試験場」を開設して、欧米の品種を含めた果樹、野菜等の栽培実験が行なわれた。プラタナスも多く輸入され、植栽されたものが現在も残っている。

日本最古のプラタナスは、新宿門から入って、日本庭園に向かう途中にある樹齢 140 年の樹(写真 P-002・次頁)。2007 年 9 月の台風で被害を受け、主幹全体がシートで覆われ、樹勢回復治療が行なわれている。幹周 6.48m あり、2m で 5 分岐、その内東側の 2 本が枯れ、西側の幹は健全で、水平に先端を伸ばしている。千駄ヶ谷門近くにも大きなプラタナスが 3 本並立していて、その内の一本は幹周 6.14m ある(写真 P-003・次頁)。

新宿門を入ってすぐ、右折して進むと、左手に巨大なプラタナスがある。測定してみると幹周 6.2m、樹高約 20m。地上 3m で大枝が水平に出て、7m で 3 分岐、大きく枝葉を伸ばす壮大な日本一のプラタナスである。



▲写真 P-002  
**日本最古のプラタナス**  
 解説前。モミジバスカケノキである。



▲写真 P-003  
**千駄ヶ谷門のプラタナス**  
 千駄ヶ谷門近くに3本ある内の最大株。モミジバスカケノキ。



▲写真 P-004  
**蛇沼牧場のプラタナス**  
 アメリカスズカケノキ。  
 (写真・Web画像)



▲写真 P-005  
**植野小学校のスズカケ**  
 スズカケノキ。  
 (写真・Web画像)



▲写真 P-006  
**四谷見附公園のプラタナス**  
 (写真・Web画像)



▲写真 P-007  
<sup>かじょう</sup>  
**霞城公園のプラタナス**  
 アメリカスズカケノキ。  
 (写真・石田徹)



◀写真 P-008  
**小石川植物園のプラタナス**  
 スズカケノキ  
 (写真・Web画像)



写真 P-009▶  
**小石川植物園の  
 モミジバスズカケノキ**  
 (写真・Web画像)